

中一 国語

古文導入 歴史的仮名遣い

---

講師 羽場 雅希

◆ 今日の授業で学ぶこと

- ・ 歴史的仮名遣いづか

## ◆ 歴史的仮名遣い

平安時代の仮名遣いがもとになって  
いるもの。読み方が現代とは異なる。

### 【歴史的仮名遣いの読み方】

① 「ゐ・ゑ・を」は「い・え・お」

〔例〕 まゐる→まいる

植ゑて→植えて

をんな→おんな

② 語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」

は「わ・い・う・え・お」

〔例〕 思はず→思わず 思ひて→思いて

思ふ→思う 思へば→思えば

にほひ→におい

ほのかに→ほのかに

③ 「ぢ・づ」「は」「じ・ず」

〔例〕 もみぢ→もみじ

めづらし→めずらし

④ 「くわ・ぐわ」は「か・が」

〔例〕 くわし→かし〔菓<sup>か</sup>子〕

ぐわん→がん〔願〕

⑤ 「む」は「ん」

〔例〕 来む→来ん

ありけむ→ありけん

⑥ 二重母音をのばすー音で判断する。

ローマ字に直してみる。

・ au・afu (アウ・アフ) ↓ ô (オー)

(例) やうやう ↓ ようよう

あふぎ ↓ おうぎ [ 扇おうぎ ]

・ iu・ifu (イウ・イフ) ↓ yû (ユー)

(例) いうげん ↓ ゆうげん

きふなり ↓ きゆうなり [ 急急なり ]

・ eu・efu (エウ・エフ) ↓ yô (ヨー)

(例) けふ ↓ きよう

てふてふ ↓ ちようちよう

## 【第一問】

(1)～(5)の傍線部を現代仮名遣いに直して、すべてひらがなで書きなさい。

(1) 先生からは、いとめでたきかをりがする。

\*めでたき…魅力的な、すばらしい

(2) 先生は、困ったことがあってもゑみを絶やさない。

(3) 先生は、「古文の世界を楽しんでもらいたい。」と思ふ。

(4) 先生は、「和歌を詠んで願いが叶ったらおもしろいだろうか？」と生徒に問ひかける。

(5) 先生が、「けふは、講師全員で歌を詠みましょう！」と言った。

(1) かおり

(2) えみ

(3) おもう

(4) といかけ

(5) きよう

【第二問】

次の傍線部の語をそれぞれ現代仮名遣いに直して、全てひらがなで書きなさい。ただし、直す必要のない語には×を書きなさい。

春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山際、少し明かりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる。

夏は夜。月のころはさらなり、闇もなほ、  
蛍の多く飛びちがひたる。また、ただ一  
つ二つなど、ほのかにうち光て行くもをか  
し。雨など降るもをかし。

〔枕草子〕

(1)	ようよう
(2)	なお
(3)	とびちがいたる
(4)	×
(5)	おかし